

次世代へ 木造建築物を

古事の森づくり活動

六月二十四日（土）に、愛媛森林管理署管内のサル谷山国有林（愛媛県久万高原町）に設定している※「伊予之^{いよ}之^の二名島古事の森^{ふたな島のしまごじ}」で、平成二九年度第一回の整備事業を実施しました。

この古事の森活動は、平成一九年度に、「伊予之二名島古事の森育成協議会」との協定に基づき、松山城や道後温泉本館など木の文化を象徴する伝統的な木造建築物の修復材を安定的に供給するための取組です。

当日は、一般公募による参加者九名を含む一三名で、取り外した植生保護管（ヘキサチューブ）を林道まで運び出す作業等を実施しました。（写真上）

現地は、石鎚山系の中腹とはいえ、蒸し暑い中での作業でした。参加して頂いた皆さま、ご苦労さまでした。（写真下）

（※ 古代において、四国を伊予之二名島と呼んだ。）



6.11 公園の樹木に樹名板を

「公園が身近になった」

梅雨空の6月11日（日）、高知市横浜新町まちづくり市民会議が主催する「地域の樹木に名札を付けよう」に参加しました。

これは地域の蒔絵台（まきえだい）公園の樹木に名札（樹名板）を取り付ける行事で、技術普及課へは樹木の学習と樹名板の取り付け指導の依頼がありました。



当日は、約60名（子ども34名を含む）の地域の方々が参加しました。

まず、職員が樹木の特徴等を説明した後、子どもたちに職員が持参した樹木の枝（スギ、ヒノキ、ナギ、タラヨウなど）を針葉樹・広葉樹に分類してもらいました。

次に、公園内にあるそれぞれの樹名、特徴等を学習し、参加者が木製の円盤に樹名・科名や葉の形などを描いて、公園の樹木に取り付けました（写真）。

作業を終えた参加者から「樹木に名札を付けたことで公園がもっと身近になった」などの声が寄せられました。

知っ得 豆知識

「ネムノキ」って （マメ科）

イラン、インドから東南アジアを経て、日本の東北地方北部まで自生。山地や斜面下部、河原などのような土壌の溜まる場所や二次林、原野、川岸に生える。（写真）



落葉高木。根はゴボウ根で、太い直根が地中深く伸び、地表面近くには吸収根は殆どない。

葉は大型の2回羽状複葉は互生し、小葉は包丁形で先は尖り、夜になると睡眠運動で小葉は閉じる。枝先に頭状花序を繖状につける。長く伸びた糸状のものは雄しべで果実は細長く扁平な豆果となる。用途は、建築や家具の一部、器具などに用いられる。樹皮や種子は、民間で打撲傷などの痛み止めに用いる。

（高知県有用植物ガイドブックより）

【編集後記】

「紫陽花は 己の色を 空に向け」

待ち遠しい梅雨明け。

この季節、室内でも水分補給をしっかりと、日々の健康管理に留意を。